

第5回いわての森林づくり県民税事業評価委員会

日 時：平成30年1月25日（木）13：30～15：30

場 所：サンセール盛岡 1階 エメラルド

次 第

1 開 会

2 議 題

- (1) いわて環境の森整備事業の施工地審査について
- (2) いわて環境の森整備事業施工地調書の改正について
- (3) いわて環境の森整備事業モニタリング調査中間報告について

3 その他

4 閉 会

いわての森林づくり県民税事業評価委員会委員名簿

(平成28年7月14日現在)

氏名	役職名等	備考
大粒来 宏 美	有限会社丸大県北農林 取締役	
岡 田 秀 二	富士大学 学長	
小山田 四 一	一戸町立図書館 館長	欠席
國 崎 貴 嗣	岩手大学農学部（環境科学系） 准教授	
佐 藤 重 昭	徳清倉庫株式会社 代表取締役	
佐 藤 誠 司	岩手県商工会議所連合会 盛岡事務局長	欠席
安 原 昌 佑	岩手県保護司会 河南分区長	
吉 田 敏 恵	岩手県消費者団体連絡協議会 常任幹事	欠席
吉 野 英 岐	岩手県立大学総合政策学部 学部長	欠席
若 生 和 江	環境アドバイザー	

(五十音順)

1 委員 10名

2 任期 平成28年7月14日～平成30年7月13日

第5回いわての森林づくり県民税事業評価委員会 県関係出席者名簿

役 職 等	氏 名	備 考
農林水産部 林務担当技監	阿 部 義 樹	
林業振興課 総括課長	大 畑 光 宏	
振興担当課長	及 川 明 宏	
主任主査	高 芝 俊 雄	
主任主査	木戸口 佐 織	
主 査	三 上 昭 典	
主 事	山 本 有 美	
森林整備課 計画担当課長	工 藤 亘	
主任主査	丸 山 墨	
主 査	似 内 智 明	
林業技術センター 主査専門研究員	新 井 隆 介	
盛岡広域振興局林務部 主任主査	須 藤 勝 吉	
盛岡広域振興局林務部 主 査	金 柿 正 嘉	
盛岡広域振興局林務部 いわて環境の森整備推進員	小 林 静 夫	
盛岡広域振興局林務部 いわて環境の森整備推進員	藤 田 隆 二	
県南広域振興局林務部 主 査	赤 座 直 輝	
花巻農林振興センター 主任林業普及指導員	木 村 経 三	
花巻農林振興センター 主任行政専門員	照 井 重 光	
花巻農林振興センター いわて環境の森整備推進員	菊 池 継 彦	
遠野農林振興センター 上席林業普及指導員	伊 東 茂 敏	
遠野農林振興センター いわて環境の森整備推進員	鈴 木 晴 美	
一関農林振興センター 上席林業普及指導員	佐々木 光 治	
沿岸広域振興局農林部 上席林業普及指導員	小 岩 俊 行	
宮古農林振興センター林務室 技 師	畠 山 智 樹	
宮古農林振興センター林務室 いわて環境の森整備推進員	伊 藤 秀 一	
岩泉林務出張所 主査林業普及指導員	木 越 聡	
大船渡農林振興センター 技 師	小 川 茜	

平成 29 年度いわて環境の森整備事業 施工地選定審査基準(審査)

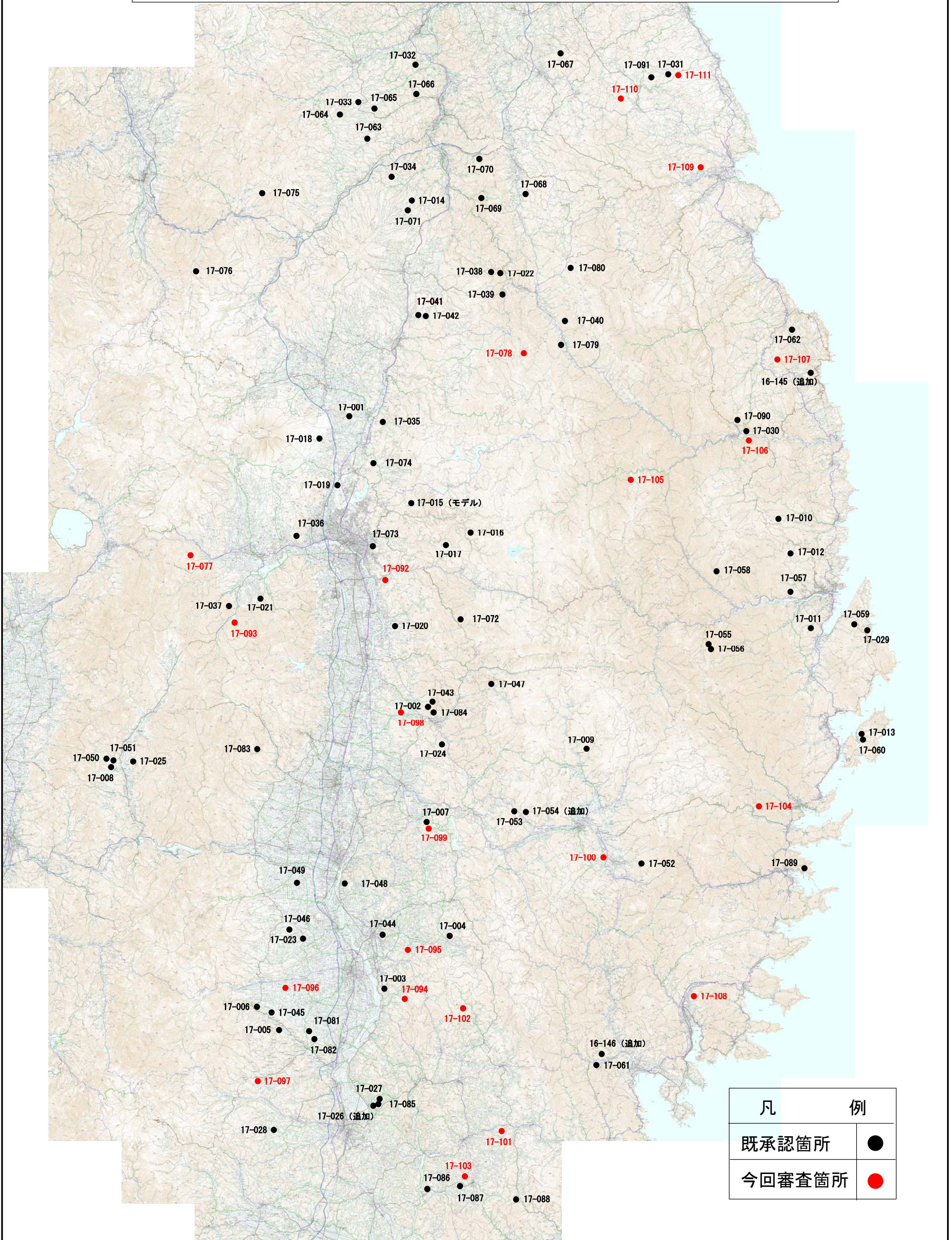
いわて環境の森整備事業の施工地選定審査に当たっては、下表に掲げる基準を満たしているものを適とする。

審査項目		審査基準
森 林 に 関 す る 事 項	事業対象森林	① 私有林であること。
		② 人工林であること。
		③ 公益林であること。 ア 水源地域等の上流域の森林 イ 野生動植物生育の場として重要な森林 ウ 自然林に戻すことによって、景観的な多様性の維持・向上を図るべき森林 エ 上記に準ずる森林
		④ 保安林である場合は、治山事業等で実施することが困難であること。
採択基準	⑤ 対象樹種は、原則として人工林であるスギ、カラマツ、アカマツ等の針葉樹であること。 ただし、アカマツ天然生林においても、地域において保全上重要な森林については、対象とするものとする。	
	⑥ 対象齢級は、原則として4から10齢級であること。 ただし、3齢級以下及び11齢級以上であっても、地域において保全上重要な森林で、本事業の計画に加えるべき森林については、対象齢級として取扱うものであること。	
	⑦ 1 施工地の面積は、0.3ヘクタール以上であって、原則として1ヘクタール以上の団地であること。 ただし、団地の考え方（団地性の判断）については、各施工地の相互の間隔が概ね10キロメートル以内の範囲であるものとする。（概ね半径10キロメートルの円内にすべての施工地が含まれること。）	
森林所有者に関する事項	⑧ 協定書の締結に同意していること。 (現時点では口頭による確認)	

平成29年度いわて環境の森整備事業施工予定地一覧表(補助)

連番	受付番号		市町村	大字	字	樹種	面積 (ha)	林齢 (年生)	申請者	特記事項
001	17	077	雫石町	御明神	小志戸前沢日向ほか 地内	スギ	45.12	23～27	岩手県森林整備協同組合	土砂流出防備保安林 12.06ha、水源涵養保安林 33.06ha
002	17	078	葛巻町	葛巻第31地割	下荒谷 地内	アカマツ	35.27	41～50	葛巻町森林組合	水源涵養保安林 35.27ha
003	17	092	盛岡市	手代森	11地割 地内	スギ	7.62	46	株式会社イワリン	
004	17	093	雫石町	南畑第18地割	小淵 地内	スギ	10.00	34,35	盛岡広域森林組合	
005	17	094	奥州市	江刺区田原	山沢 地内	スギ	1.32	18	奥州地方森林組合	
006	17	095	奥州市	江刺区藤里	湯坪ほか 地内	スギ、ヒノキ	2.51	19～45	岩手県森林整備協同組合	
007	17	096	奥州市	胆沢区若柳	山ノ神 地内	スギ、ヒノキ	1.45	26～49	奥州地方森林組合	
008	17	097	奥州市	衣川区	鷹の巣ほか 地内	スギ、ヒノキ	9.54	34	岩手県森林整備協同組合	
009	17	098	花巻市	大迫町亀ヶ森	第15地割ほか 地内	スギ	4.32	36～60	岩手県森林整備協同組合	スギ 52～60年生 1.33ha
010	17	099	花巻市	東和町	砂子3区ほか 地内	スギ、ヒノキ	4.68	20～43	クイック株式会社	
011	17	100	遠野市	上郷町	平倉 地内	スギ	2.00	40	遠野地方森林組合	
012	17	101	一関市	千厩町清田	大清水ほか 地内	スギ、ヒノキ	5.98	17～56	一関地方森林組合	スギ 56年生 0.46ha
013	17	102	一関市	大東町鳥海	市ノ通ほか 地内	スギ	11.62	40～49	一関地方森林組合	
014	17	103	一関市	藤沢町新沼	岩倉ほか 地内	スギ、ヒノキ	7.13	15～50	岩手県森林整備協同組合	スギ 15年生 0.17ha
015	17	104	釜石市	栗林町	第14地割ほか 地内	スギ、カラマツ	15.25	16～59	釜石地方森林組合	スギ 58～59年生 1.29ha
016	17	105	岩泉町	大川	下外山 地内	スギ、アカマツ	1.42	26～42	岩手県森林整備協同組合	
017	17	106	岩泉町	岩泉	指畑 地内	スギ	1.65	36～51	岩泉町森林組合	スギ 51年生 0.34ha
018	17	107	田野畑村	菅窪ほか 地内	—	スギ、ヒノキ	2.48	23～31	田野畑村森林組合	
019	17	108	大船渡市	立根町	向田ほか 地内	スギ	3.62	21～45	気仙地方森林組合	
020	17	109	久慈市	川貫	第11地割ほか 地内	スギ、アカマツ	2.01	35～49	久慈地方森林組合	
021	17	110	洋野町	大野第13地割	柏木畑ほか 地内	スギ	2.19	27～45	有限会社丸大県北農林	
022	17	111	洋野町	大野第34地割	落合ほか 地内	アカマツ	3.53	46～49	岩手県森林整備協同組合	
a	今回計		22施工地				180.71			
b	平成29年度既承認面積						554.55			
c	a + b						735.26			

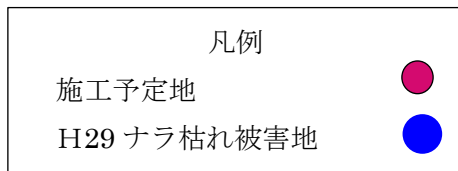
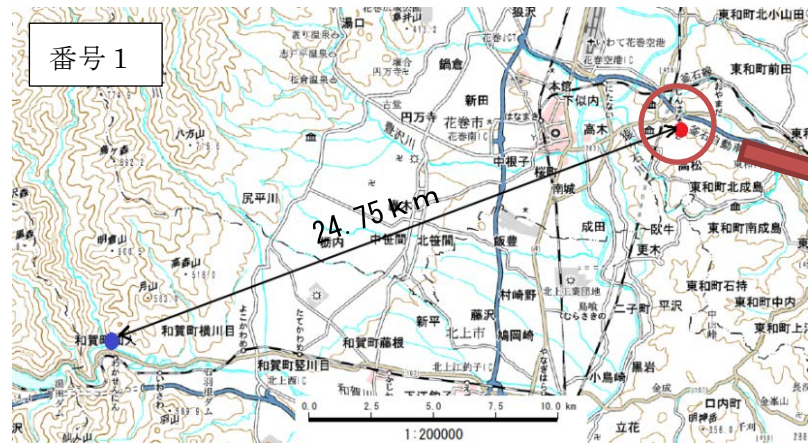
平成29年度いわて環境の森整備事業施工位置図



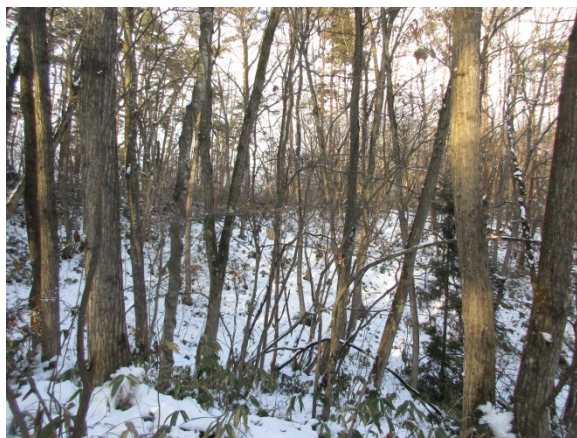
凡	例
既承認箇所	●
今回審査箇所	●

平成 29 年度いわての森林づくり県民税事業 施工予定地一覧表
 (ナラ林健全化促進)

番号	年度	事業主体名	所在地	面積	森林の現況	森林整備の必要性	備考
1	29	岩手南部国有林材生産協同組合	花巻市高松第 28 地割 43-3	6.08ha	<p>当該森林は、ナラを主体としてブナ、クリなどが混じる林齢 32～69 年生の広葉樹天然林である。</p> <p>下層には広葉樹の稚樹がみられ、更新については、伐採木からの萌芽のほかに、これら稚樹の成長も期待できる。</p>	<p>当該区域は、ナラ枯れ被害地（北上市和賀町仙人地内）から約 25 km の距離にあり、宮澤賢治記念館や賢治童話村が立地する胡四王山に隣接し、多くの観光客が訪れる地域である。</p> <p>ナラ枯れ被害のリスクが高いとされる大径木も見られ、被害が発生した場合に、景観の悪化や枯死木の倒伏による人身被害、通行車両への被害などが見込まれることから、被害を受けにくい若いナラ林に更新し、森林の公益性を維持する必要がある。</p>	<p>施工予定地の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公益林 ・私有林 ・当年の被害地から 30 km 以内 ・6 齢級（26 年生）以上



【現況写真】 番号1 (花巻市高松地内の施工予定地)

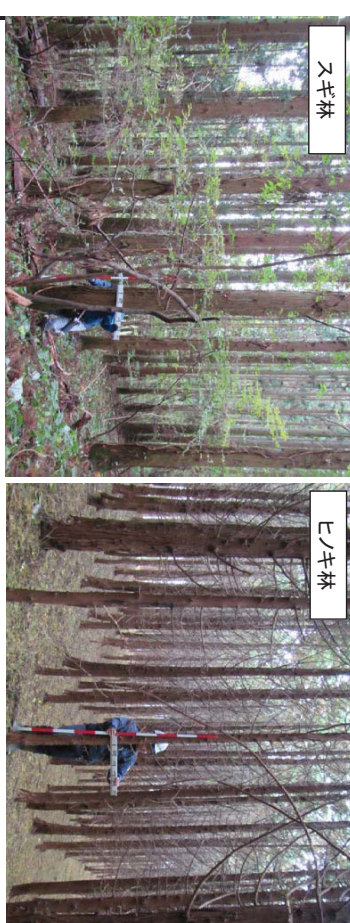


記載例(現行) 平成29年度 いわて環境の森整備事業施工地調査

所在地: 一関市舞川字中入 地内
森林の位置: 北上川支流蕃台川上流域
公益林区分: ①水源地域等の上流域の森林
樹種: スギ、ヒノキ
面積: 2.07ha

森林の現況
下層植生: 草本類、かん木類が一部に見られる。
林相の状況: 被圧木、折損木、枯損木が見られる。
施業の履歴: 除伐まで実施
傾斜: 15°～30°
特記事項: スギ 53～68年生 0.61ha、1.220本
面積割合はスギ9割、ヒノキ1割

森林の現況(写真)



森林整備(事業実施)の必要性
除伐後、長期間手入れを行わなかったことから、成立本数が多く混み合っており、被圧木や折損木、枯損木が見られる。このことから、強度間伐を行い、残存木の健全化を図るとともに下層植生の侵入・生育を促し、森林の公益的機能を発揮させる必要がある。

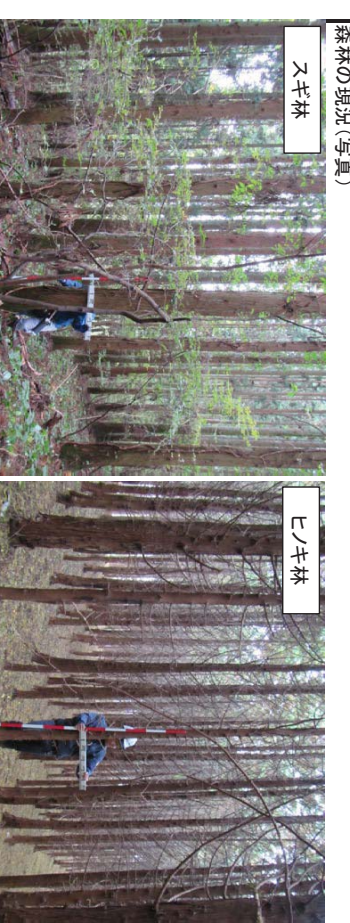
- ①公益林であること。
②私有林であること。
③人工林であること。
④保安林である場合は、治山事業等で実施することが困難であること。
⑤対象樹種は原則として人工林であるスギ、カラマツ、アカマツ等の針葉樹であること。
⑥対象年齢は原則として4～10齢級(16～50年生)であること。
⑦1施工地の面積が0.3ha以上であって、原則として1ha以上の団地であること。
⑧森林所有者が協定締結に同意していること。
⑨県の意見

記載例(改正案) 平成29年度 いわて環境の森整備事業施工地調査

所在地: 一関市舞川字中入 地内
森林の位置: 北上川支流蕃台川上流域
公益林区分: ①水源地域等の上流域の森林
樹種: スギ、ヒノキ
面積: 2.07ha

森林の現況
下層植生: 草本類、かん木類が一部に見られる。
林相の状況: 被圧木、折損木、枯損木が見られる。
施業の履歴: 除伐まで実施
傾斜: 15°～30°
特記事項: スギ 53～68年生 0.61ha、1.220本
面積割合はスギ9割、ヒノキ1割

森林の現況(写真)



森林整備(事業実施)の必要性
森林の状況と整備の目的
□ 成立本数多 □ 被圧木 □ 雪害木 □ 折損木、枯損木
□ 枝の枯れ上がり □ つる絡み
□ その他 ()
□ 森林所有者の状況 ()
□ 整備意欲低下 ()
□ 自力整備困難 ()
□ 森林整備の必要性を理解 ()
□ その他 ()
3 下流の保全対象
□ 集落 □ 農地 □ 国道 □ 県道 □ 鉄道 □ その他 ()

- ① 施工地調査で内容を審査した結果、施工地選定基準に合致している。
② 11齢級以上の森林を含むが、現地調査の結果、立木密度が高いことから整備が必要である。
③ 集落、農地、県道の上流に位置していることから、公益上重要で緊急に整備が必要な森林である。
④ 今後、森林所有者が自ら森林の手入れを行う可能性は低い。このことから、森林所有者に代わって事業を実施する必要がある。

いわて環境の森整備事業 モニタリング調査

平成 29 年度調査中間報告

岩手県林業技術センター 研究部

調査結果の概要

- 1 調査箇所として8地区に11調査区を設置し、平成28年度まで間伐7～9年後の植栽木の成長、光環境の変化、下層植生の変化を測定した。平成29年度は根白地区のみ全項目の調査を行った(図-2、3)。
- 2 調査箇所の間伐率は、本数で40.7～54.2%、材積で19.6～39.8%である(表-1)。
- 3 間伐後の植栽木の樹高や胸高直径は、年々増加していた(図-4、5)。
- 4 間伐7～9年後には、多くの調査地で下層の広葉樹が成長し、亜高木層や低木層を形成していた。林内の光環境は間伐前の水準に戻りつつあるが、その原因として植栽木の成長に加えて、階層構造の発達があげられる(図-6～9)。

1 調査の背景・目的

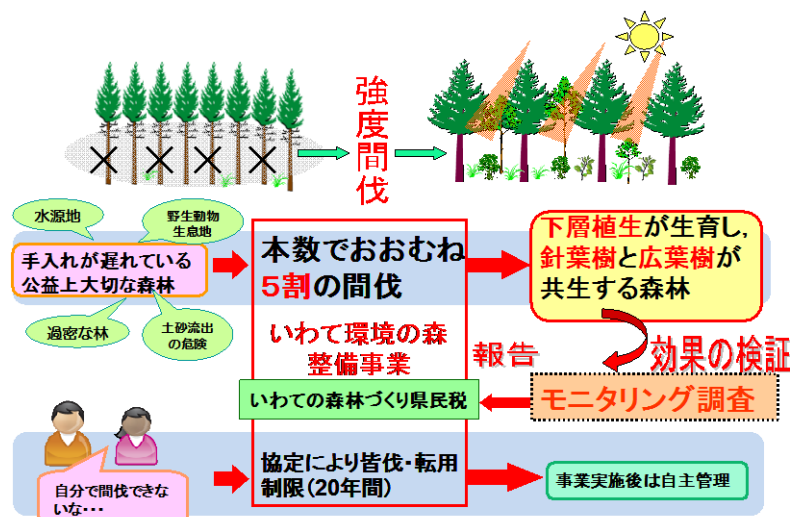


図-1 いわて環境の森整備事業の内容とモニタリング調査の目的

2 調査箇所と調査方法

(1) 調査箇所の概要と位置

設置・間伐年度	地区名	所在地	植栽樹種	間伐時 林齢	調査区数
H19	赤沢	紫波町赤沢	スギ	49年	1
H19	達曽部	遠野市宮守町達曽部	スギ	26年	3
H19	玉崎	奥州市江刺区玉里	ヒノキ	33年	2
H20	夏井	久慈市夏井町	アカマツ	42年	1
H20	野黒沢	二戸市浄法寺町	カラマツ	43年	1
H20	根白	大船渡市三陸町吉浜	スギ	43年	1
H21	拝峠	花巻市東和町石鳩岡	スギ	25年	1
H21	川目	釜石市川目	スギ	31年	1

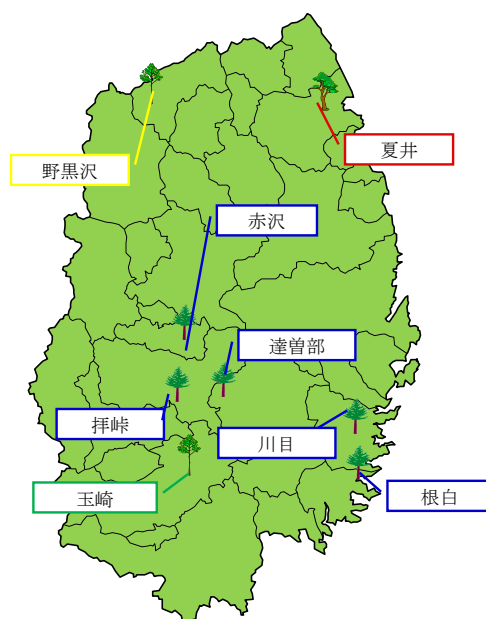


図-2 モニタリング調査位置図

(2) 調査方法

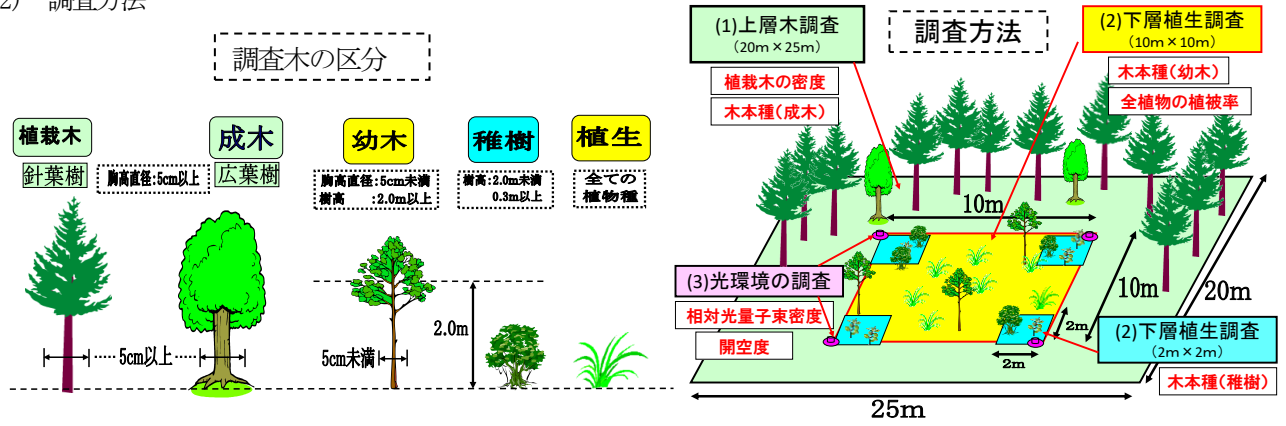


図-3 調査木の大きさによる区分と調査方法の概要

3 調査結果

(1) 植栽木の林分調査結果

ア 調査区の概況

表-1 調査区の概況

間伐年度	調査区名	植栽樹種	伐採時 林齢 年	立木本数 本/ha		本数 間伐率 %	材積 間伐率 %	胸高断面積 間伐率 %	平均樹高 m		平均直径 cm		収量比数	
				間伐前	間伐後				間伐前	間伐後	間伐前	間伐後	間伐前	間伐後
19	赤沢	スギ	49	1,000	540	46.0	32.3	33.2	22.6	23.8	28.0	31.4	0.75	0.55
19	達曽部①	スギ	26	2,700	1,560	42.2	21.1	23.7	14.6	16.2	16.5	19.4	0.88	0.73
19	達曽部②	スギ	26	2,360	1,360	42.4	22.6	20.1	13.8	15.3	15.8	19.2	0.80	0.65
19	達曽部③	スギ	26	2,160	1,280	40.7	21.7	19.1	13.6	14.8	16.2	19.1	0.75	0.61
20	根白	スギ	43	1,580	900	43.0	34.5	35.4	17.4	17.9	23.4	25.3	0.78	0.58
21	拝峠	スギ	25	2,160	1,220	43.5	19.6	25.1	16.6	18.1	19.7	23.2	0.87	0.70
21	川目	スギ	31	2,240	1,140	49.1	23.5	27.0	18.7	20.2	21.0	25.5	0.93	0.74
19	玉崎①	ヒノキ	33	1,600	800	50.0	37.5	37.4	15.5	16.6	22.0	24.3	—	—
19	玉崎②	ヒノキ	33	2,080	960	53.8	38.3	35.8	15.1	16.2	18.5	21.1	—	—
20	夏井	アカマツ	42	1,940	1,080	44.3	29.5	27.1	16.0	16.2	18.0	20.4	0.89	0.79
20	野黒沢	カラマツ	43	1,180	540	54.2	39.8	37.4	18.3	18.8	22.4	26.7	0.81	0.58

イ 植栽木の樹高

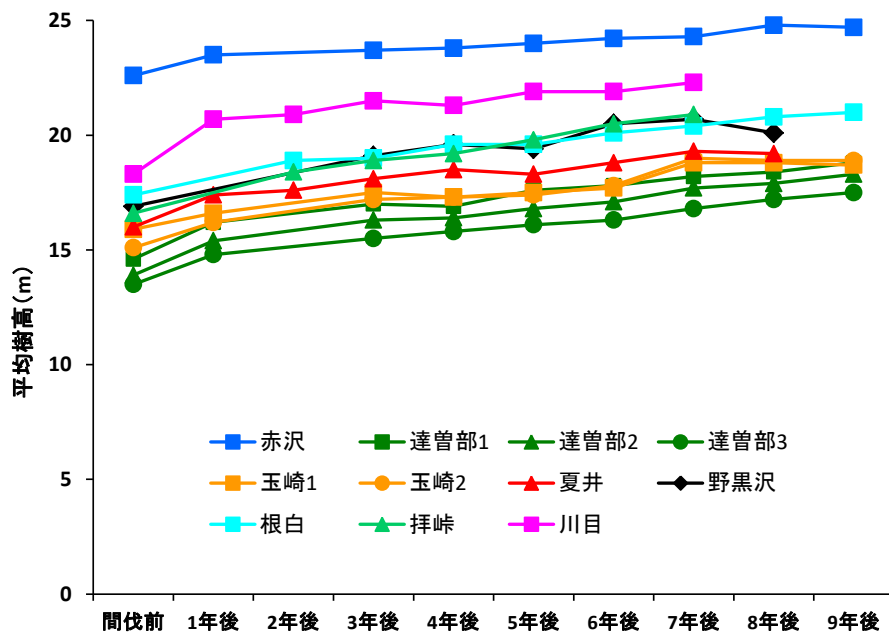


図-4 植栽木の樹高成長

ウ 植栽木の胸高直径

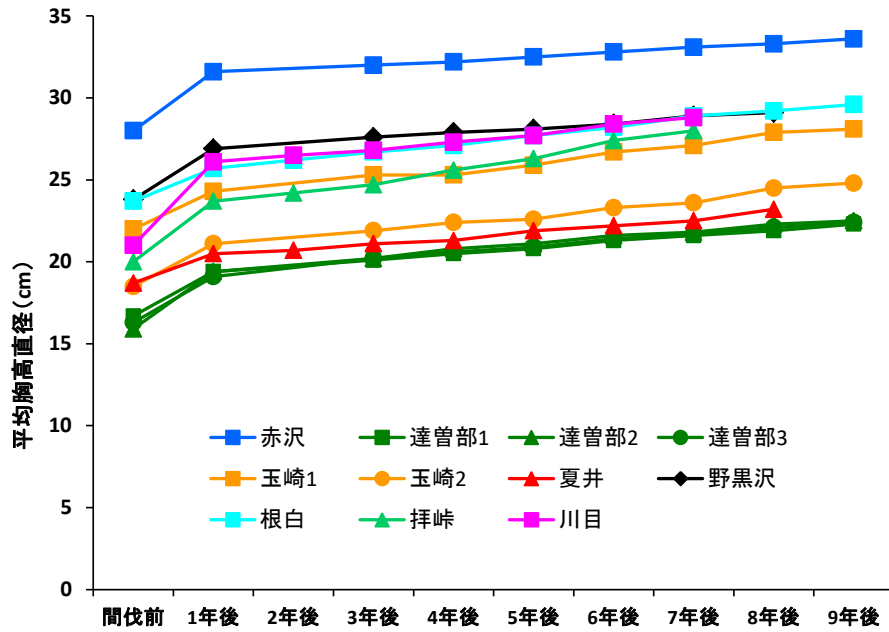


図-5 植栽木の胸高直径成長

(2) 階層構造

間伐前と間伐後7から9年経過した林分の階層構造を示した(図-6~9)。

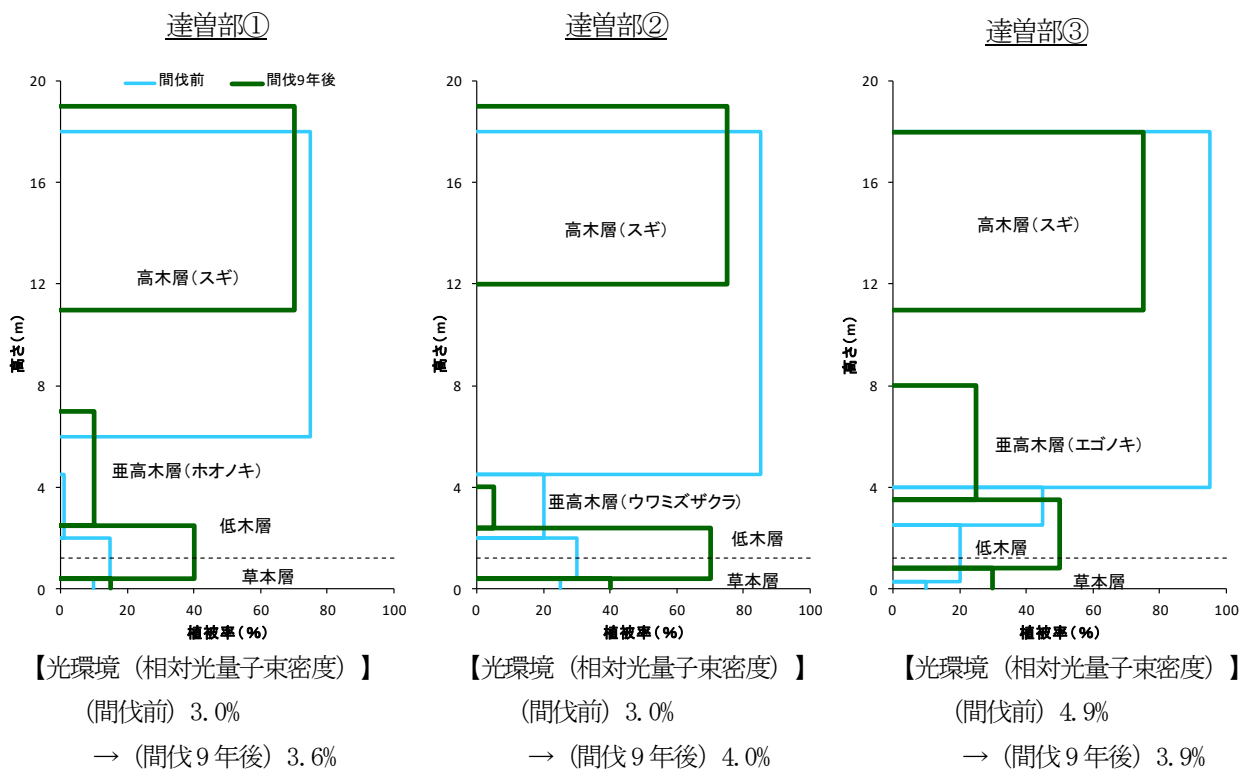
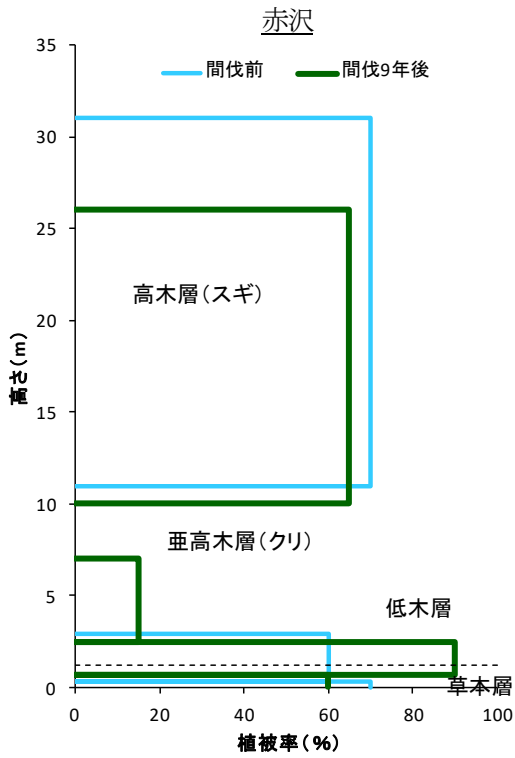


図-6 間伐前と間伐9年後における階層構造の変化(スギ)

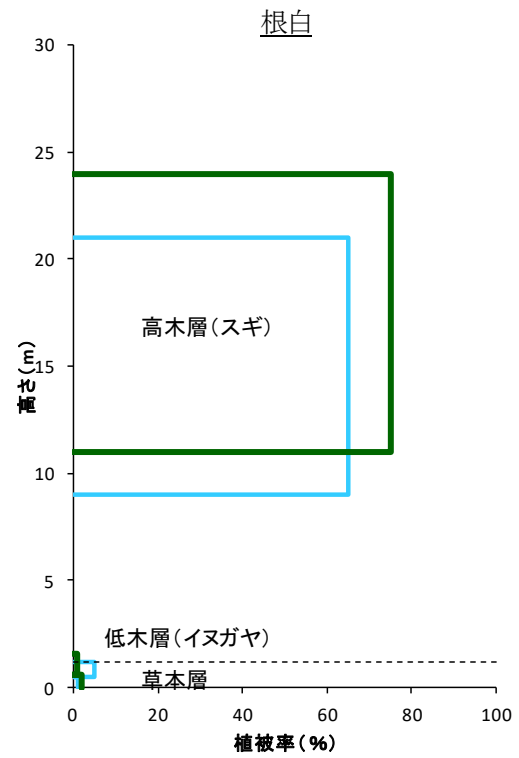
※高木層及び亜高木層の括弧内は優占種を、1.2mの点線は相対光量子束密度測定の高さを各々示す。



【光環境 (相対光量子束密度)】

(間伐前) 5.2%

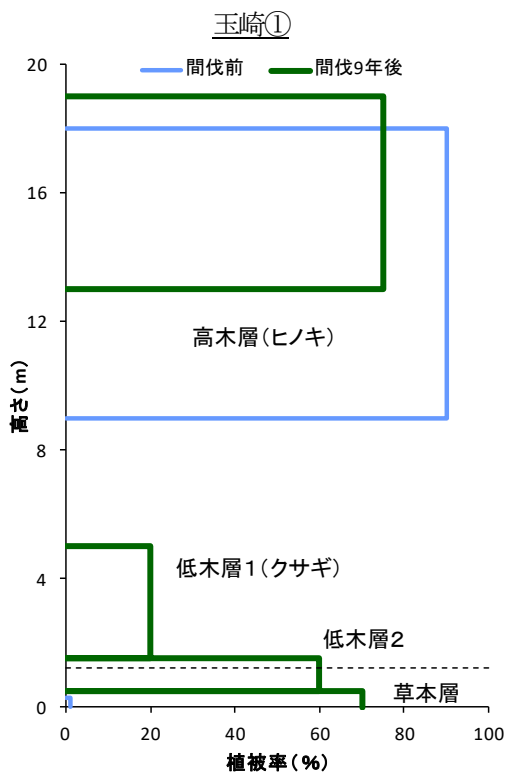
→ (間伐9年後) 6.5%



【光環境 (相対光量子束密度)】

(間伐前) 4.5%

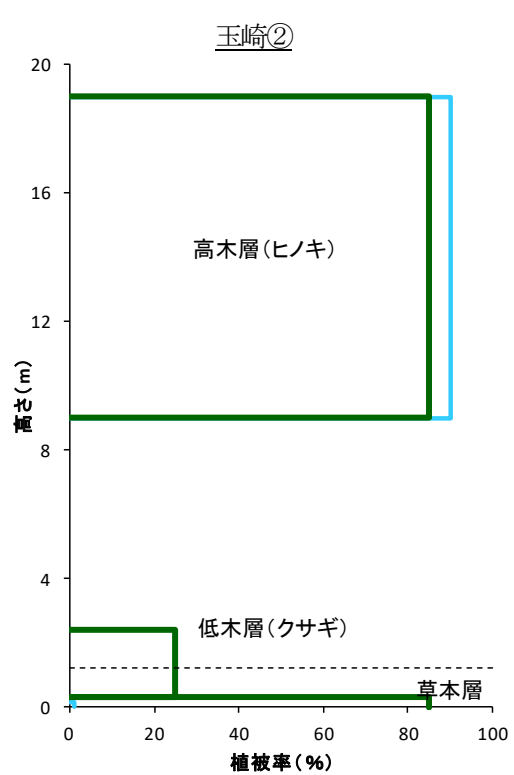
→ (間伐9年後) 6.6%



【光環境 (相対光量子束密度)】

(間伐前) 1.1%

→ (間伐9年後) 2.9%



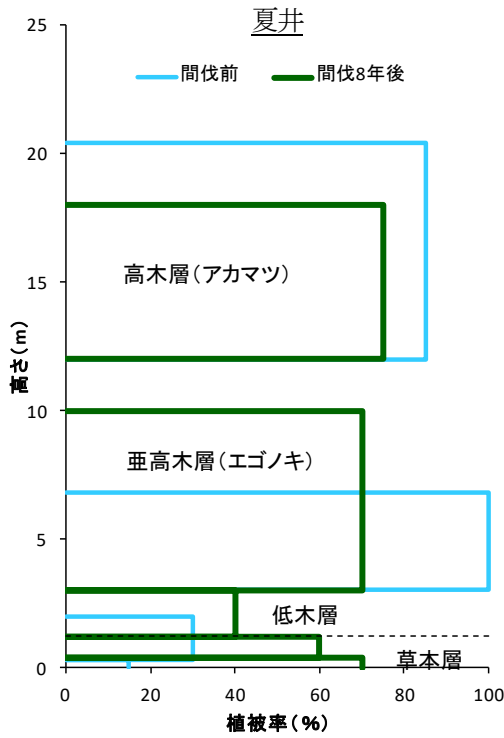
【光環境 (相対光量子束密度)】

(間伐前) 0.7%

→ (間伐9年後) 2.6%

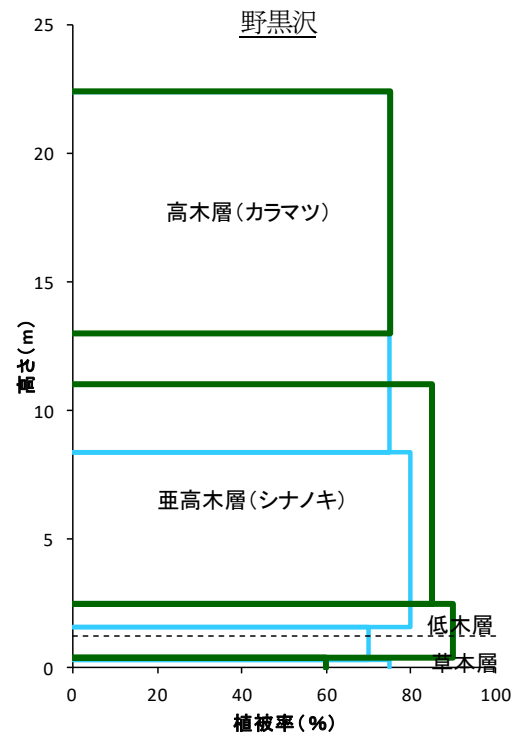
図-7 間伐前と間伐9年後における階層構造の変化(スギ、ヒノキ)

※高木層及び亜高木層の括弧内は優占種を、1.2mの点線は相対光量子束密度測定の高さを各々示す。



【光環境(相対光量子束密度)】

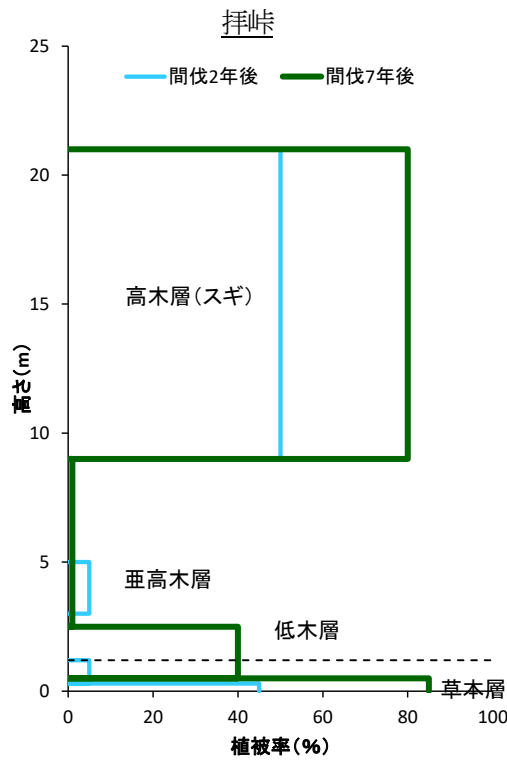
(間伐前) 0.7%
→ (間伐8年後) 2.1%



【光環境(相対光量子束密度)】

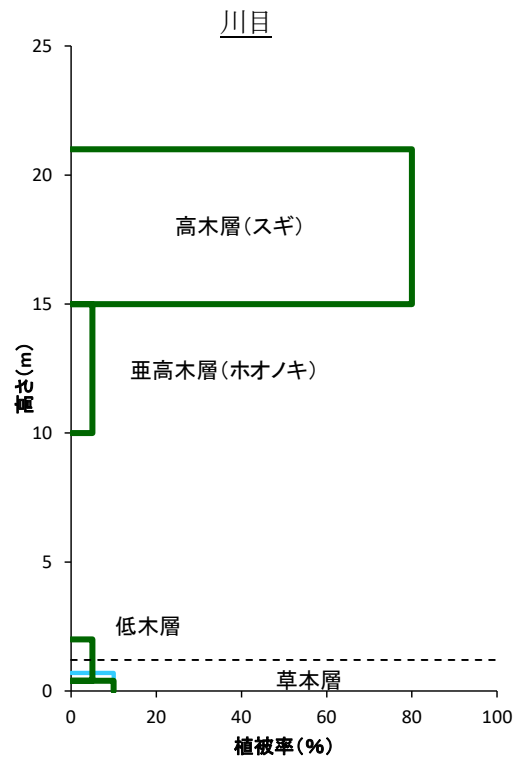
(間伐前) 1.6%
→ (間伐8年後) 2.7%

図-8 間伐前と間伐8年後における階層構造の変化(アカマツ、カラマツ)



【光環境(相対光量子束密度)】

(間伐2年後) 12.5%
→ (間伐7年後) 5.7%



【光環境(相対光量子束密度)】

(間伐2年後) 6.3%
→ (間伐7年後) 2.8%

図-9 間伐2年後と間伐7年後における階層構造の変化(スギ)

※高木層及び亜高木層の括弧内は優占種を、1.2mの点線は相対光量子束密度測定の高さを各々示す。

赤沢地区
スギ

達魯部2地区
スギ

玉崎1地区
ヒノキ

(H19)
間伐前



(H20)
間伐1年後



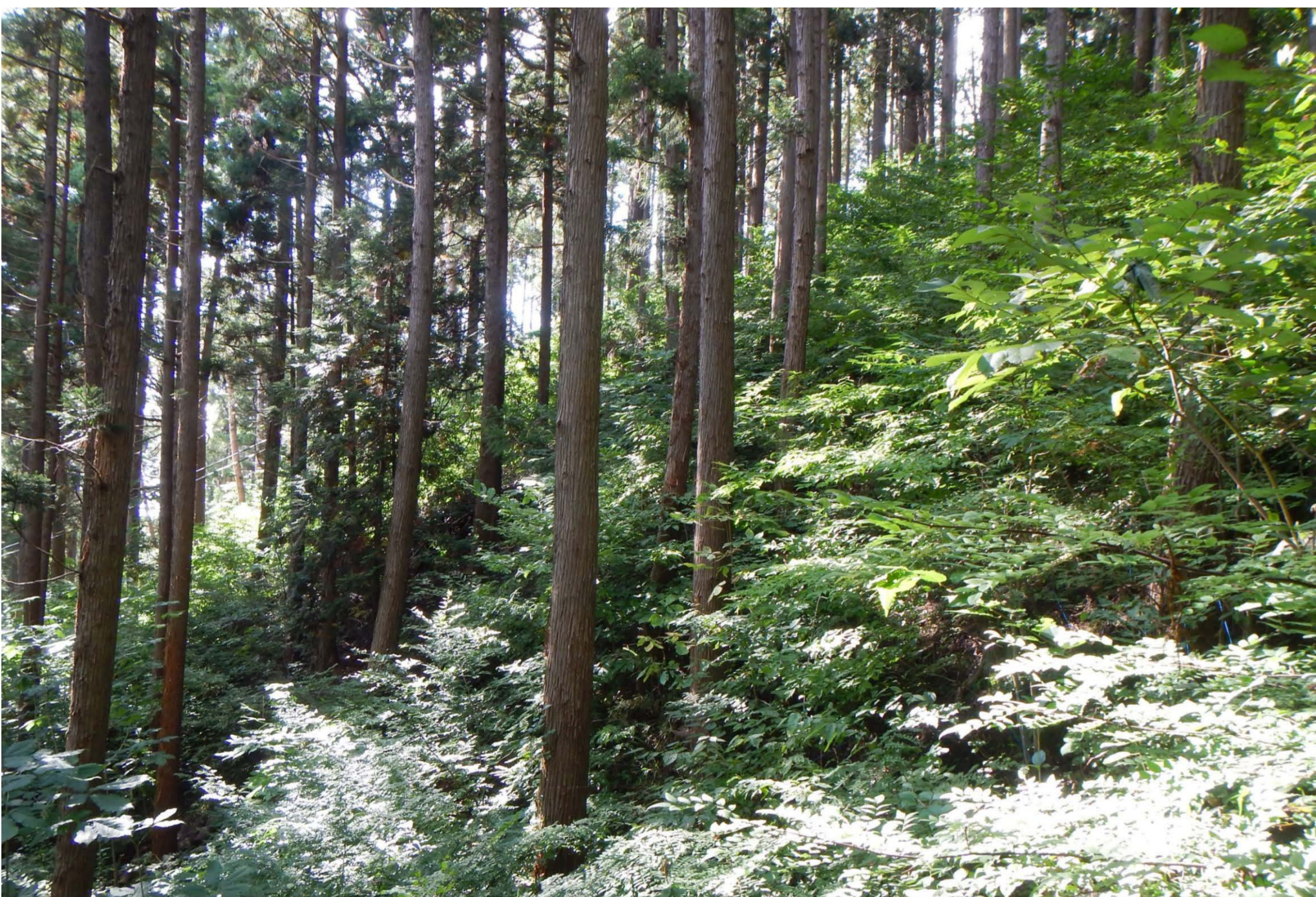
(H22)
間伐3年後



(H24)
間伐5年後



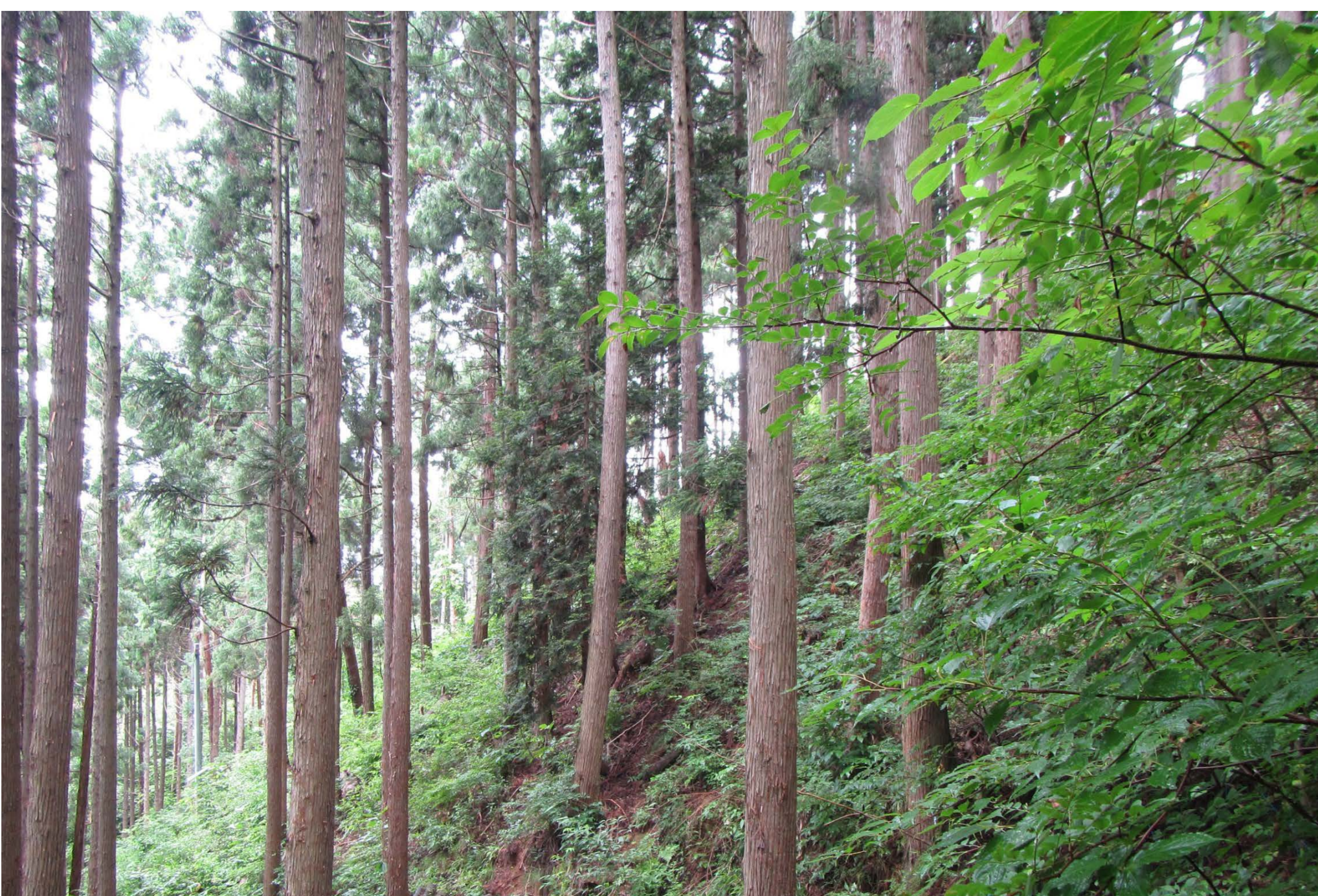
(H26)
間伐7年後



(H28)
間伐9年後



(H29)
間伐10年後



根白地区

スギ

夏井地区

アカマツ

野黒沢地区

カラマツ

(H20) 間伐前



(H21) 間伐1年後



(H23) 間伐3年後



(H25) 間伐5年後



(H27) 間伐7年後



(H28) 間伐8年後



(H29) 間伐9年後



川目地区
スギ

拝峠地区
スギ

間伐前
(H21)



間伐1年後
(H22)



間伐3年後
(H24)



間伐5年後
(H26)



間伐7年後
(H28)



間伐8年後
(H29)



平成 29 年度いわて森のゼミナール推進事業について

1 森林学習会

(1) 目的

この事業は、児童・生徒をはじめ広く県民を対象に、森林・林業に対する理解を深めていただく機会を提供するもの。

(2) 委託業務の進捗状況

県教育事務所より推薦された小・中学校・義務教育学校において、児童・生徒を対象とした森林・林業に関する講座や自然観察会等の実施。

・実施要望 23 校

うち新規校 5 校：土淵小、室根東小、向田小、綾里小、横田小

・実施済 21 校（次ページ資料参照）

今後実施する学校 2 校：奥玉小、小久慈小

2 森の実践ゼミナール

(1) 目的

地域住民の自主的な森林づくり活動が県内各地で活発に行われるよう、指導者の育成や森林環境学習地域プラン策定等を支援するもの。

(2) 委託業務の進捗状況

① 指導者研修会の開催

開催日	場所	研修内容
10 月 7 日（土）	アイーナ	森林環境学習地域プランの過年度の事例紹介。プラン候補地（3 地域）の概要、意見交換。
1 月 14 日（日）	アイーナ	現地調査を踏まえたプラン候補地（3 地域）の内容検討、意見交換。

② プラン策定の検討

地域	内容
盛岡市中野地区	動物公園近くのスギ林を活用した間伐見本林、自然観察の場、体力作りの場としての整備
葛巻町田代地区	子供たちの利用を主とした活動プログラム
紫波町山屋地区	近くの空き家をリノベーションし、これを拠点とした研修プログラム

平成29年度 いわて森のゼミナール推進事業 森林学習会実施校一覧

H30.1.25現在

NO	教育事務所	実施校等名称	実施時期	実施場所	実施形態	時間	実施概要	人数	対象者	講師
1	盛岡	盛岡市立土淵小学校	7月6日	教室、ホール等	授業	13:40～14:30	森林の働きの種類、特に森林の水涵養機能および洪水調節機能、水質浄化機能の仕組みを知る	76名	5学年	浜津ミサノ 外館聖八朗
2	盛岡	葛巻町立小屋瀬小学校	8月29日	教室	学校・PTA合同行事	9:30～12:00	親子枯山水教室	36名	全校生徒18名、PTA10名、先生8名	川村晃寛
3	盛岡	岩手町立水堀小学校	10月4日	北上川・川の駅、御堂観音、北上川源泉	授業	10:30～13:00	・フォトスタンド作り・公園内の樹木観察・水源の観察・おぐり舟の再現・松ぼっくりの観察・松ぼっくりの玉入れ	13名	1学年4名 2学年9名	戸澤武美
4	中部	北上市立口内小学校	6月30日	口内小学校校庭及び校舎周辺	授業	10:40～12:30	校庭のまわりの樹木や草花の名前、特徴、遊び方等について	14名	1学年4名 2学年10名	小沢宗 高橋扶和
5	中部	遠野市立達曾部小学校	10月6日	観察の森、校舎裏の森林	授業	10:30～12:00	観察の森を活用し植物や生物の名前や特徴を知る。ネイチャークラフトを行う。	14名	5,6学年	浜津ミサノ
6	県南	奥州市立大田代小学校	9月29日	森の駅	授業	8:45～14:20	学校から森の駅までの樹木等の自然観察、押し花ラミネート額縁装、ネイチャーゲーム	16名	2～6学年	阿倍永宏 菅原民子
7	県南	奥州市立伊手小学校	10月6日	学校敷地内及び周辺	授業	10:15～11:50	学校林の観察学習、森林についての講話	9名	5学年	菅原民子 高橋扶和
8	県南	奥州市立胆沢愛宕小学校	9月29日	胆沢ダム周辺の樹木観察	授業	9:20～12:00	つぶ沼周辺の樹木観察、木の実の種類と食用になるもの、有毒なもの等の特徴、樹木の匂い、木の実の飛ばし方	14名	5学年	佐藤勤 高橋扶和
9	県南	一関市立室根東小学校	11月1日	校地周辺	授業	9:00～13:00	学校隣接の森林を散策しさまざまな葉の形、色、木の実を観察する。ウバユリの実の中のたくさんの種、ヤマブキの随の部分のスポンジ状であること、ガマズミの実を味わい甘さ、酸味を体感した。	23名	1, 2年生、教員	千田典文
10	沿岸南部	大船渡市立越喜来小学校	9月29日	学校裏の川と森	授業	10:30～12:00	川の生き物・川辺の植物と生き物・川の源流を探す・森と川と海のつながり・昆虫や植物の観察	13名	3学年	千田永久世
11	県北	久慈市立夏井小学校	10月4日	学校、夏井小の森	授業	95分 10:40～12:15	・ツリークライミング ・道具としてのロープの便利さ遊びとしてのロープ不思議さの体験 ・経験したことのない木の高さに身を置き、空間の広さの体験	13名	1～4学年	中野雅幸 小原良樹
12	県北	洋野町立向田小学校	9月28日	学校(教室)	授業	45分 10:40～12:15	森林の役割を学ぶ	15名	3～6学年	中野雅幸 小原良樹
13	宮古	宮古市立崎山小学校	9月22日	国民休暇村フィールドハウス周辺	授業(生活科)	9:20～14:00	木工工作、自然観察	19名	1学年	齋藤眞琴 平塚喬 岩間良明
14	宮古	山田町立大浦小学校	7月10日	校庭周辺の森林	授業	1時間	「森林の観察」 ・森林と生活の関わり ・森林の役割	8名	4学年	齋藤眞琴
15	県南	奥州市立黒石小学校	6月15日	千貫石森林公園	授業	10:30～12:30	①もりの学び舎周辺の自然観察 ②森林の果たす役割の自然学習 ③木の実・輪切板を使い創作活動	15名	4学年5学年	阿部 永宏 菅原 民子
16	沿岸南部	大船渡市立綾里小学校	12月13日	大小迫つむぎの家	授業	10:15～12:00	つむぎの家の里山散策・動物の痕跡探し・植樹林の成長確認と冬芽の観察・渋柿と甘柿の違い・里山とは何か・里山の大切さ・里山を故郷の宝とする考え方	13名	6学年	千田 永久世
17	沿岸南部	陸前高田市立横田小学校	9月26日	常光寺境内を流れる川周	森林観察	10:30～12:00	森林と周辺の植物観察・マタタビの試食・枯れ木の役割と実生の植物観察・孟宗竹林の観察・台風の影響による斜面の爪痕・棚田と里山の重要性	5名	5学年	千田 永久世
18	盛岡	盛岡市立大慈寺小学校	10月6日	校庭	授業	10:00～12:00	校庭の樹木の説明、針葉樹と広葉樹の違い、大慈寺小にしかないノニレの木	36名	3学年	田村正武 泉桂子 道原僚
19	盛岡	盛岡市立羽場小学校	9月13日	学校近隣の野山	生活科授業	8:30～13:10	地元の山の自然を知ろう	46名	2学年38名、親6名、先生2名	川村晃寛 川村冬子
20	盛岡	雫石町立橋場小学校	11月7日	教室	授業	10:45～11:30	樹木の種類・県内に生育する樹木、13種類の樹木で作られたトランプを用いゲームを通じて樹種の特徴を学ぶ	7名	5, 6年生	川村晃寛
21	盛岡	盛岡市立玉山小学校	11月28日	教室	授業	10:30～11:15	楽しく自然と親しみ自然を知る。樹木の名前を使った後出しじゃんけんゲーム、フィールドビンゴによる校庭の樹木観察	21名	1～4年生	浜津ミサノ 泉桂子
計								426名		

平成 29 年度いわての森林づくり普及啓発事業（情報発信業務委託）について

1 業務目的

いわての森林づくり県民税の趣旨及び当該県民税を財源として実施している取組を県民に広く周知し、森林環境保全等に関する意識の向上を図ること。

2 委託期間

平成 29 年 11 月 29 日 ～ 平成 30 年 3 月 26 日

3 委託業者

株式会社 岩手広告社（盛岡市大通一丁目 11-2）

【テレビCM】

4 委託業務内容

(1) テレビCM

民放 4 局で環境の森事業周知編及び県民税事業実績編の 2 種類の 15 秒CMを放映中。



(2) ラジオCM

民放 2 局で環境の森事業周知編及び県民税使途周知編の 2 種類の 15 秒CMを放映中。

(3) いわての森林づくりアンケートキャンペーン

インターネットに専用サイトを構築し、1 月末まで実施。県民の森林に対する意識、県民税の認知等に関する設問を設定。テレビ局等のメールマガジン、新聞広告等を活用し周知。

【アンケートサイト】



県では、岩手にお住まいのみなさんの森林に対する意識などについて調査しています。アンケートにお答えいただいた方の中から、「いわて純情ギフト5500円コース」^{※1}を抽選で10名様にプレゼントいたします。

^{※1}「いわて純情ギフト5500円コース」内容：http://www.a-coop.jp/archives/giftcat/gift5_s

(4) 動画検索サイト YouTube 広告

いわての森林づくりアンケートキャンペーン告知を 5 秒間表示。（閲覧者全員が視聴）5 秒後、引き続き視聴する場合は 15 秒のテレビCMへ移行するとともに、アンケートサイトへ誘導。

(5) 新聞広告

平成 29 年 12 月 30 日付、岩手日報朝刊社会面記事下 4 段に掲載。
 掲載内容は、事業成果、環境の森事業周知、アンケートキャンペーン告知。

(6) 児童用リーフレットの配布

昨年度に当該事業で製作したリーフレットを増刷し、県内全小学校の 5 年生相当数を各小学校に配布予定。

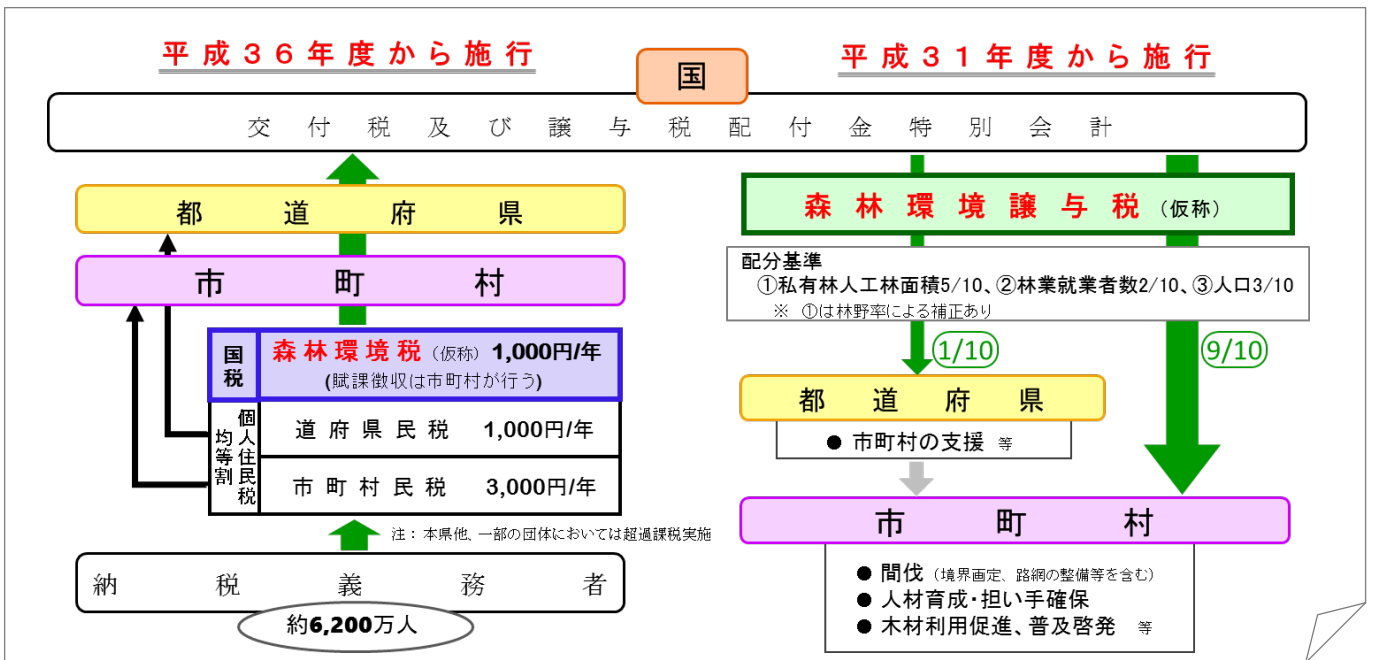
森林環境税(仮称)等の創設について

1 森林環境税(仮称)及び森林環境譲与税(仮称)の創設

- (1) 平成30年度与党税制改正大綱(H29.12.14公表)では、森林環境税(仮称)及び森林環境譲与税(仮称)の創設が明記された。
- (2) 森林環境税(仮称)は、地方の固有財源として、市町村及び都道府県に対して、森林環境譲与税(仮称)として譲与する。
- (3) 森林環境譲与税(仮称)は、市町村が行う間伐や人材育成・担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発等の森林整備及びその促進に関する費用並びに都道府県が行う市町村による森林整備に対する支援等に関する費用に充てる。

【制度設計イメージ】

(林野庁資料より)

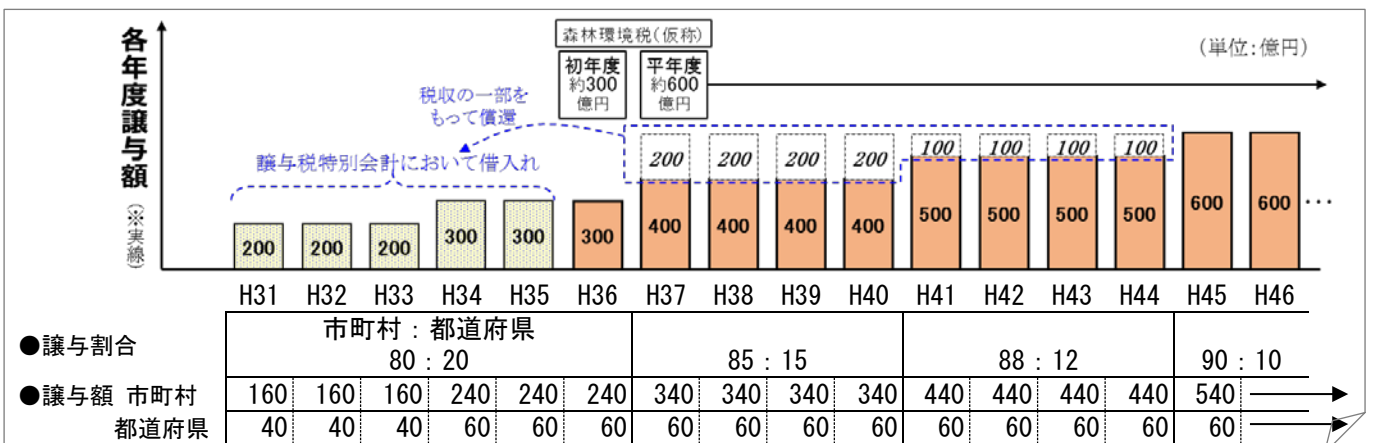


2 創設時の経過措置

- (1) 市町村の体制整備の進捗に伴い、譲与額が徐々に増加するよう借入額及び償還額を設定する。
- (2) 市町村が行う森林整備等を都道府県が支援・補完する役割に鑑み、都道府県に対して総額の1割を譲与する。
- (3) なお、制度創設当初は、市町村を支援する都道府県の役割が大きいと想定されることから、譲与割合を2割とし、段階的に1割に移行する。

【各年度の譲与額と譲与割合及び基準】

(林野庁資料より)



3 市町村による新たな森林管理

自然的条件が悪く、採算ベースに乗らない森林を、市町村自らが管理を行う新たな制度について、国は、平成31年度施行に向けて法制化を検討している。

【市町村自らが森林管理を行う新たな制度のイメージ】

(林野庁資料より)

